

# 「春の河（小景異情）」

## 定期テスト対策練習問題

年	組	番	名前
---	---	---	----

【１】次の詩「春の河」を読んで問いに答えましょう。

<p>たつぷりと</p> <p>（ア）は</p> <p>小さな川々まで</p> <p>あふれてゐる</p> <p>（イ）</p>
--

問１ （ア）に当てはまる言葉を漢字１字で答えましょう。



問2 ( イ ) に当てはまる言葉を詩の中からぬき出して答えましょう。

問3 「たつぷりと」を、現代使われているかなの使い方で書き直しましょう。

問4 「あふれてゐる」を、現代使われているかなの使い方で書き直しましょう。

問5 この詩で使われている表現の工夫をもっとも正しく説明しているものを次の中から選び○でかこみましょう。

ア：言葉の音の数をそろえることでリズム感を出して印象を強くしている

イ：読む人に話しかけるような言葉を使って印象を強くしている

ウ：同じ言葉をくりかえし使うことで印象を強くしている

エ：古い文字を使うことで読む人になつかしさを感じさせようとしている



【2】次の詩「小景異情」を読んで問いに答えましょう。

あんずよ

花着け

地ぞ早やに輝やけ

あんずよ（ア）

あんずよ燃えよ

問1 （ア）に当てはまる言葉を詩の中から抜きだして答えましょう。

問2 「地ぞ早やに輝やけ」には作者のどのような思いがこめられていますか。もっとも正しいものを次の中から選び○でかこみましょう。

ア：真っ白な雪で輝いて美しい

イ：朝の早い時間には、朝つゆが輝いている

ウ：夕焼けにそまって輝くのが楽しみだ

エ：春が来て、輝くのが待ち遠しい



問3 「あんずよ燃えよ」とありますが、どのような意味ですか。  
次の文の（ ）に当てはまる言葉を詩の中からぬき出して答え  
ましょう。

「あんずに、燃えるようにあざやかに（ ）て欲しい」

問4 「春の河」の詩と、「小景異情景」の詩では、どちらがより  
暖かい季節のことを書いたものと考えられますか。



## 「春の河（小景異情）」

### 定期テスト対策練習問題（解答）

【1】

問1 春

問2 あふれてゐる

問3 たっぷりと

【解説】現代仮名遣いの小さな文字「っ」などの促音（そくおん）は、歴史的仮名遣いでは大きな文字で書いていた。

問4 あふれている

【解説】歴史的仮名遣いの「ゐ」は、現代仮名遣いでは「い」に直す。



問5 ウ

【解説】「あふれてゐる あふれてゐる」というように、同じ言葉をくりかえして使うことで、読む人に強い印象をあたえる工夫がされている。

【2】

問1 花着け

問2 エ

【解説】この詩には、あんずの花が咲く春を待ち遠しく思う気持ちが書かれている。

問3 花着け

【解説】「花着け」とは、花を咲かせるという意味で、「燃えよ」とは、「燃えるような鮮やかな色」の花を咲かせて欲しいという意味で使われている。



#### 問4 春の河

【解説】「春の河」では、「春は小さな川々まであふれてゐる」とあるので、もう春がやってきた河の様子を書いた詩であるということがわかる。

「小景異情」では、早く春になってあんずの花に咲いてほしいという気持ちが書かれていることから、まだ春がやってきていないということがわかる。

よって、もう春がおとずれている「春の河」の方がより暖かい季節のことを書いたものである。

